



新人戦に向けてウエイトトレーニングの目標設定をし、課題を達成した選手を中心に今大会を戦った。スターティング5の身長は167/172/167/169.6/176で平均170cmと超小柄。身長差を覆す平面での勝負と泥臭いディフェンス、リバウンドルーズで体を張ることを追究した。



緑の下の力持ち、名脇役 #96 城間。圧倒的なスタッツこそ生み出さないものの、オフボールの職人として攻守で活躍。気配りが魅力で、味方に 0.1 秒 1cm でも余裕を生み出すカッティングやスクリーンのフォローの役回りを徹底した。後述する選手らの活躍は彼の引き立てがあってこそ。



Mr. fundamental #11 東。ガッツあふれるハードワークで熱を周囲に浸透しつつ、地道な努力に裏付けされた、教科書のように徹底的な基礎をもつ。この試合のオーダーであるエースストッパーとしての仕事を全うし、長い年月をかけて磨いたフットワークで相手エースを封じ込めた。



本試合の出場機会はなかったが、#17 東がチームに与えた功績は大きい。チームメイトへ練習中もベンチでもアドバイスや指摘を続ける、よい方向に導く力をもつ選手。かつ出場機会を求め、努力を重ねるハングリー精神が◎。チームが強くなるには彼のような存在があるからだと断言できる。



この試合の立役者、エース#5 篠原。前日の目標では「20点をとる」と宣言したが、「30点取らないで何がエースだ」と認識の甘さを一蹴。シュートを外すことが許されない彼に対して、チームメイトからの献身で作ったフリーと、自ら責任をもって放った3Pを次々と沈め、31点を取り要求を上回った。



主体性を体現する選手である#6土屋は52期主将。自分で考え、指導者が1を与えたら10に膨らましてくれる。欠かさない朝練のルーティーンワークから始まり、練習内容を工夫し、トレーニングに取り組んだ結果が実った。コート上で喝を入れる存在でもあり、技術だけではなく精神的な強さでチームを牽引する。



部長#4滝坂はバスケットボールのみならず、挨拶や礼儀といったチームの在り方を磨いてくれる、なくてはならない存在。指導者の相談役としての一面もあり、コミュニケーションの橋渡し役としてチームを円滑に運営する。プレイは当然ながらも、プレイ外でも常に貢献してくれる頼りになる選手。



走れるセンター#31 畠山。持ち前の明るいキャラクターでチームの雰囲気を引き上げる。特出した技術や運動能力はなく、ポジション内では決して高身長というわけではない。しかし、ガッツあふれるプレイぶりと、献身的なリバウンドで貢献する。彼の人柄もあわせ、泥臭いプレイでチームを沸かせ、流れを引き込んだ。



ヘルニアで苦しみつつもリハビリに取り組んだ#75 五十嵐は1年ぶりに高体連の公式戦に復帰。1年間裏方としてチームを支え、細かいところに目を届け、気を配れる優しさを磨いた。後輩からの信頼も大きく、身体的にも精神的にも大黒柱のような存在。



技巧派ビッグマン#99 上原。まだ身体が仕上がっていないのでプレイタイムは多くないものの、円陣での盛り上げや、ここぞの声出しは51期#23 早津と同じ系統符として受け継がれている。暖かい雰囲気での励まし、チームメイトをタッチで迎え入れる人柄が一番の武器。



チーム1 不器用で、お世辞にも技術力が高いとは言えない#41 谷平。しかし、チーム1のボールへの執着心でリバウンドルーズの職人としての立場を確立した。オフェンスリバウンドや壁役のスクリーンなどで、自分の役割をしっかりと遂行するまっすぐな性格が魅力。



1年生ながら主力として活躍する#3 星野。圧倒的な能力に目が行きがちだが、一番の魅力は前向きにとらえる受容力と人間性。スポンジのように吸収し、積極的なアウトプットを行って学んでいる。自らの成長のみならず、学年を超えて周囲に還元していく様に、53期も期待せざるを得ない。



51期#15 中尾のような存在に大成する可能をもつ#13 中山。判断力に未熟さはあるものの、平面でのスピードは圧巻。素直さとまっすぐな性格がハングリー精神を引き立たせており、本試合では#11 東とともに相手エースに食らいついた。



ベンチスタートからインサイドで体を張った#8 高橋。思い切りの良さでスペースに飛び込み、ボールに絡んだ。後半はオフェンスリバウンドを支配しつつ、大きな声でチームメイトを鼓舞し、会場を沸かせた。7:30 から朝練に参加し、コツコツと自らを成長させている。



主将と部長が決定するベンチメンバー。選出された1年生たちがタッチで迎えるシーン。上手下手は関係なく、一芸を極めたり、コツコツと地道な努力を重ねていたりなどが評価された。能力は努力を重ねるにつれ上達していくことを見越して、気配りや声掛けなどといった自分のできることでチームに貢献できるかも実力の一つ。





写真左は声出しの第一人者鈴木。右は守備のスペシャリスト富田。この他にも魅力的な生徒が多数在籍している東大和高校。全員を紹介したいが、残念ながら次の機会に。



ヘルプアップは本校で大切にしている文化のひとつ。駆け寄り、支えあい、助け合う。



ハドルも大切な文化。生徒主体で意見を出し合い、確認の過程で問題を解決する。



日ごろからたくさんの支援をいただいた保護者席へ感謝の挨拶とタッチのシーン。活躍は保護者のご支援があることを忘れない。わが子はもちろんのこと、部員全員を同じチームとして応援いただいている。保護者や学校関係者、OBOGを含めてのチーム大和。だからこそバスケット以外の生活をおろそかにしてはいけない。



4年ぶりの本大会出場を決めた瞬間。#5 篠原に抱きつき歓喜の大爆発。この後速やかに整列した。



写真提供 内田 初音さん